

第4学年 国語科 学習構想案

日 時 令和7年10月16日(木) 第2校時
 場 所 人吉市立西瀬小学校 4年1組教室
 指導者 教諭 田中 康陽

1 単元構想

単元名	気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう「ごんぎつね」 (光村図書「はばたき」⑩ P. 13~34)		
単元の目標	(1) [知識及び技能] 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができます。 (1) オ (2) [思考力、判断力、表現力等] 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。C (1) エ (3) [思考力、判断力、表現力等] 文章を読んで理解したに基づいて、感想や考えをもつことができる。C (1) オ (4) [学びに向かう力、人間性等] 進んで文章を読んで理解したに基づいて感想をもち、学習の見通しをもって、物語の結末についての感想を書こうとする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

単元終了時の子供の姿 (単元のゴールの姿・期待される姿)

言葉の性質による語句のまとまりを理解し、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて考えたことを表現することができる子供。

単元を通した学習課題 (単元の中心的な学習課題)	本単元で働かせる見方・考え方
ごんの気持ちの変化に着目して読み、「ごんぎつね」を読んだ感想を、他の学校の4年生と伝え合おう。	登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、文章を読んで理解したに基づいて感想を考えることを通して言葉への自覚を高めること。

指導計画と評価計画 (10時間取扱い 本時7/10)

過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
	1	○ 題材と出会い、初発の感想を書く。 ・心に残ったことや不思議に思ったことなどを自由に書く。 ○ 学習のゴールを決める。	【態①】 (発言・ノート)
—	2	○ 物語の設定を捉え、問い合わせを見つける。 ・本文の中から、時、場、人物が書かれている言葉を見つけ出し、どんな状況の物語なのか考える。 ・「ごん」と「兵十」の人物像について「考える。 ・物語の流れをつかみ、3つの問い合わせから、大きな問い合わせを考え、学習計画を立てる。 【大きな問い合わせ】 「『ごん』の気持ちは、『兵十』に通じたのだろうか。」	【思①】 (発言・シート・タブレット) 【態①】 (発言・観察・シート)

	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ごん」と「兵十」の気持ちについて整理する。 	<p>★【知①】（発言・シート・タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。
二	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～5までの「ごん」と「兵十」のお互いの見方について考える。 	<p>★【思①】（発言・シート・タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>「ごん」の気持ちは、「兵十」に通じたのか考える。【本時】</u> 	<p>★【思②】（発言・シート・タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情景が書かれている表現について考え、物語の結末について、感想をまとめようとする。 	<p>★【態①】（発言・シート・タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、物語の結末についての感想をまとめようとしている。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他の学校の4年生と、「ごんぎつね」の感想を交流する。 	<p>★【態①】（発言・シート・タブレット）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、物語の結末についての感想を交流することで、自分の考えを深めようとしている。

2 単元における系統及び子供の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)																													
小学校学習指導要領第3学年及び4学年 〔知識及び技能〕 (1) オ 言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。 〔思考力、判断力、表現力等〕 「C読むこと」 (1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 (2) オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。																													
教材・題材の価値																													
本教材は、場面が明確に分かれており、場面の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを捉えやすい構成となっている。また、「情景」という用語が初めて出てくるため、情景描写からも登場人物の気持ちに迫れることを理解するのに適した教材である。 本教材の多くの場面は、「ごん」の視点で書かれている。そのため、「ごん」の気持ちやその変化が捉えやすく、子供は思いに寄り添いながら読み進めることができる。そのような学習を通して、登場人物の気持ちの変化や場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する力、文章を読んで理解したことに基づいて感想をもつ力を育むことができる教材である。																													
本単元における系統																													
子供の実態(単元の目標につながる学びの実態)																													
<p>■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況 人吉市学力調査より</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>「物語文を読む」に係る内容</th> <th>学級正答率</th> <th>全国正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登場人物の様子について、叙述を基に捉えている。</td> <td>74.1</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。</td> <td>81.5</td> <td>81.1</td> </tr> <tr> <td>文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。</td> <td>55.6</td> <td>55.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>(児童数26人、単位：%)</p>					「物語文を読む」に係る内容	学級正答率	全国正答率	登場人物の様子について、叙述を基に捉えている。	74.1	83.3	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。	81.5	81.1	文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。	55.6	55.8													
「物語文を読む」に係る内容	学級正答率	全国正答率																											
登場人物の様子について、叙述を基に捉えている。	74.1	83.3																											
登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。	81.5	81.1																											
文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。	55.6	55.8																											
<p>■本単元の研究の視点に関する意識の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>「学び」に係る調査内容</th> <th>よく</th> <th>まあまあ</th> <th>あまり</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「なぜ」「どうして」という「問い合わせ」をもちながら学習しているか。</td> <td>27</td> <td>50</td> <td>23</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>自分の考えを主体的に友だちや先生に伝えているか。</td> <td>31</td> <td>46</td> <td>22</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>課題を解決するために、友だちと話し合っているか。</td> <td>35</td> <td>50</td> <td>15</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>友だちの意見をもとに自分の考えを見直しているか。</td> <td>23</td> <td>54</td> <td>23</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(児童数26人、単位：%)</p>					「学び」に係る調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない	「なぜ」「どうして」という「問い合わせ」をもちながら学習しているか。	27	50	23	0	自分の考えを主体的に友だちや先生に伝えているか。	31	46	22	1	課題を解決するために、友だちと話し合っているか。	35	50	15	0	友だちの意見をもとに自分の考えを見直しているか。	23	54	23	0
「学び」に係る調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない																									
「なぜ」「どうして」という「問い合わせ」をもちながら学習しているか。	27	50	23	0																									
自分の考えを主体的に友だちや先生に伝えているか。	31	46	22	1																									
課題を解決するために、友だちと話し合っているか。	35	50	15	0																									
友だちの意見をもとに自分の考えを見直しているか。	23	54	23	0																									
<p>■考察 (資質・能力に関して)</p> <p>人吉市学力調査の結果から見ると、「登場人物の様子について叙述を基に捉える」項目では、全国と比較すると、約10%下回っている。「登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える」項目と「文</p>																													

章を読んで感じたことや考えたことを共有している」項目は、全国平均と近いことが分かるが、様子や気持ちを読み取る力については、個人差があるといえる。また、感じたことや考えたことを共有する項目に関しては、読み取り以上に個人差があった。本単元では、読み取りの力はもちろんだが、子供が自分の考えを表現する方法や共有する場の工夫が必要であると考える。

(学びに関して)

子供たちは、国語科の学習に意欲的な子供が多い。「なぜ」「どうして」という「問い合わせ」をもちながら授業に臨み、話し合いの中で、自分の意見を伝え、考えを深めている子供が多い一方で、「あまり」「ない」に回答している子供も一定数いる。また、学びの意識についても個人差があると捉えられる。そこで、全員が「なぜ」「どうして」のような「問い合わせ」をもつことができる導入の工夫が必要であると考え、本文を読んで感じた一人一人の感想を基に、学級の大きな問い合わせを作つて学習を進めていく。さらに、毎時間の導入で、他の友達がどのような考えを持っているのかを、視覚的に共有することで、他の人のとの考え方の違いからも「問い合わせ」を引き出し、全員で学んでいく授業を目指していく必要がある。

さらに、自分の考えを主体的に伝えることにも苦手さを感じている子供がいることや課題解決に向けた話し合いでも、15パーセントの子供が苦手さを感じているため、まずは、一人一人が自分の考え方をもち、自信をもつて伝えたり、話したりできる工夫が必要であると考える。

3 指導に当たっての留意点

視点1 主体的な学びを支え、学びの本質へとつながる子供の問い合わせを生み出す導入の工夫

- 初発の感想から、「ごん」「兵十」「作品全体を通して、気になるところ」など、それぞれに分類しながら、単元全体を通して学級で考えたいことは何かを問うことで、一人一人の感想を毎時間継続して考えることのできる学級全体の問い合わせに繋げる。
- 「ごん」と「兵十」の心の距離を可視化したものを電子黒板に掲示し、5の場面までの2人の心の距離をクラスでは、どのように考えている人が多いかを提示することで、クライマックスである6の場面はどうなるだろうと想像させる。

視点2 子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問や活動の設定

- 6の場面を音読し、共有アプリの思考ツールで、5の場面までの「ごん」と「兵十」の心の距離がどのように変化したかを自分も相手も視覚的に捉えることができるようとする。
- 学級の大きな問い合わせである「ごんの気持ちは兵十に伝わったのかどうか。」を考えることで、これまでの「ごん」と「兵十」のかかわりや気持ちの変化に着目させ、「兵十」の心情に迫ることができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 「ごん」と「兵十」の行動について叙述を基に捉え、二人の心の距離を考えることを通して、そのときの「ごん」と「兵十」の気持ちを想像し、二人の関係性について考えをまとめることができる。

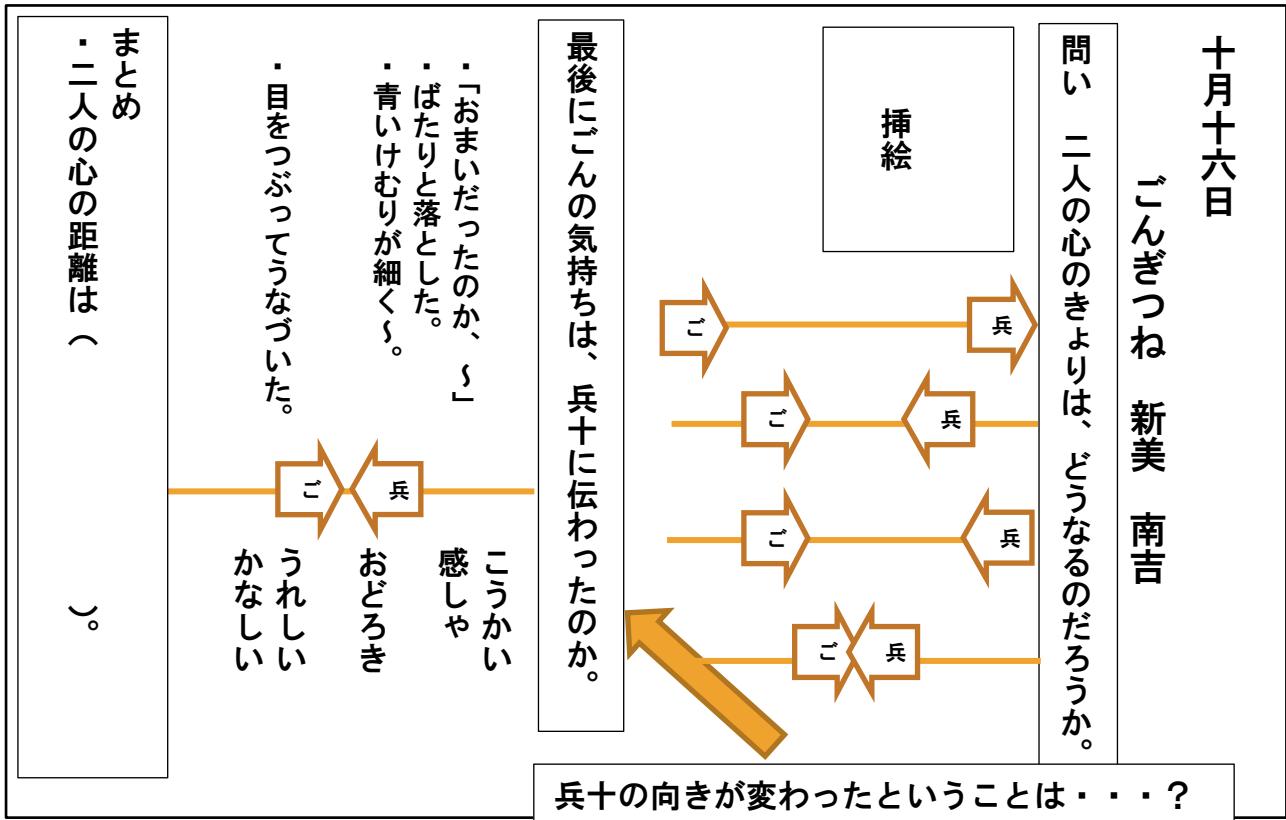
(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◆発問、◇予想される子供の発言)	○指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>前時の学習を基に、「ごん」と「兵十」の本時の問い合わせを引き出す。</p> <p>◆(前時の心の距離を見せて) 5の場面では、どうなっていますか。</p> <p>◇「ごん」と「兵十」が離れていた。</p> <p>◆いよいよクライマックスの場面だけど、二人の心の距離は、このままなのかな。</p> <p>◇2人とも近づくと思います。</p> <p>◇「ごん」だけ近づくと思います。</p> <p>◇そのままだと思います。</p>	<p>【視点1について】</p> <p>○前時までに考えた心の距離(距離、向き)について、視覚的に示すことにより、6の場面では、「兵十」がどのように変化するのか着目させることで問い合わせを引き出す。</p>
展開	35分	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>(1)6の場面を音読し「ごん」と「兵十」の気持ちを考えながら、思考ツールで二人の位置を動かす。</p> <p>◇やっぱりごんは近づいたな。</p> <p>◇兵十は離れたままかも…。</p> <p>でも兵十の向きはかわったな。</p> <p>◇二人とも近づいてる！</p> <p>◇兵十は、近づいたのかな。どっちなんだろう…</p> <p>(2)友達と交流し、考えを深め、全体で共有する。</p> <p>◇ごんは、償いの気持ちがあるかもしれないけど、兵十は最後に撃ってるから、ごんだけ近づいた。</p> <p>◇兵十の最後のセリフやごんの行動から、二人とも近づいた。</p> <p>ゆさぶり発問や活動</p> <p>◆最後に「ごん」の気持ちは、「兵十」に伝わったのかな</p> <p>◇伝わったと思う。「おまいだったのか、～」のところで、兵十は後悔しているように感じるから。</p> <p>◇伝わっていない。「おまいだったのか、～」では、償いとまでは思っていないんじゃないかな。</p> <p>◇伝わったと思う。「青いけむりが細く～」のところでも、兵十の後悔の気持ちがあるから。</p> <p>◇伝わっていない。「ばたりと落とした」や「おまいだったのか」で、ごんだとは分かったかもしれないけど、これまでのことは許せないかもしれないから。</p> <p>(3)二人の距離はどうなったかをそれぞれの言葉でまとめる。</p>	<p>○共有アプリを活用し、自分の考えを視覚的に表す。</p> <p>○共有アプリで他の人の考えも参考にしながら、自分の考えを深める時間を十分に確保する。</p> <p>【視点2について】</p> <p>○「ごん」の気持ちが、「兵十」に伝わったのかを考えることで、本文の叙述を基に自分の考えを深める。</p> <p>○全体で共有する前に、グループで交流することで、自分や相手の立場と考えに、叙述の根拠があることに気づき、考えをより深める。</p> <p>【具体的評価規準】思②</p> <p>○叙述をもとに、兵十やごんの気持ちを想像し、二人の関係性についてまとめることができる。(注:発言・シート・タブレット)</p> <p>○全体共有の場では、グループの意見や考えを取り上げながら、全体への共有につなげる。</p> <p>【到達していない子供への手立て】</p> <p>○兵十の様子や気持ちを想像できる叙述を示したり、友達と交流したりすることでの自分の考えに一番近いものはないか尋ねて選択させる。</p> <p>○まとめの書き出しを示し、子供の考えを書きだしやすくする。</p>
終末	5分	3 振り返りをする。	○振り返りの視点を提示し、考えをまとめやすくする。

【前提: 授業の終末に、つぶやいてほしい子供の言葉】

・「おまいだったのか、～」で、兵十がごんの償いに気づいて、ごんに対して後悔の気持ちがあるから、二人の距離は近づいたと思った。

【板書計画】



【ICT活用計画】

- ・初発の感想や問い合わせを共有アプリで共有し、他の人の考え方やどんな問い合わせがあるなどを自由に知ることができるようとする。
- ・場面ごとの「ごん」と「兵十」の心の距離を共有アプリの思考ツールで視覚的に表すことができるようとする。